

けいれん まぶたの痙攣について



こんにちは。院長の梅津由子です。
はやいものでもう11月。インフルエンザの予防接種も始まり、庭木の雪囲いなど冬に向けての準備をする季節になりました。
今月は、眼瞼(がんけん)＝まぶたの症状についてお話ししようと思います。

「眼瞼痙攣(がんけんけいれん)」は、まぶたの痙攣のことで、自分の意志とは関係なく筋肉に収縮が起こる病気です。

初期症状としては「まぶしい感じ」や「眼が乾いてショボショボする」「まぶたの周りの筋肉がピクピクする」などがあります。通常は両眼に症状が現れますが、左右で程度に差があることも少なくありません。初期症状がドライアイと似ているために正しい診断がつかないことも多く、そういったケースまで含めると、現在、日本でこの症状に悩んでいる人は数十万人以上にのぼるといわれています。このうち最も多いのが40代以降の女性、ついで中高年の男性となっています。

やがて症状が進んでくると、まぶたがしょっちゅう下がってくる感じがしたり、さらには全く眼を開けていられなくなり、視力があるにもかかわらず、失明と同じような状態にまで陥ることもあります。

「眼が疲れるとまぶたがピクピクする」「最近まばたきの回数が増えた」「テレビやパソコンがまぶしくて見づらい」「ドライアイの治療をしているのに、ちっとも良くならない」。そんな状態が長引いている人は、眼科で詳しく診察してもらいましょう。

実際多くの方が、まぶたの一部が自分の意志とは関係なく一時的にピクピクと痙攣する症状を経験したことがあるのではないのでしょうか？痙攣がなかなかおさまらず受診される方もいらっしゃいますが、ピクピクが片眼にのみ起きる場合は、眼瞼ミオキミアといって疲れやストレスが原因で起きる症状です。ゆっくり休んだり、ストレスの原因を除去することで数日から数週間で治まってくるので心配ありません。

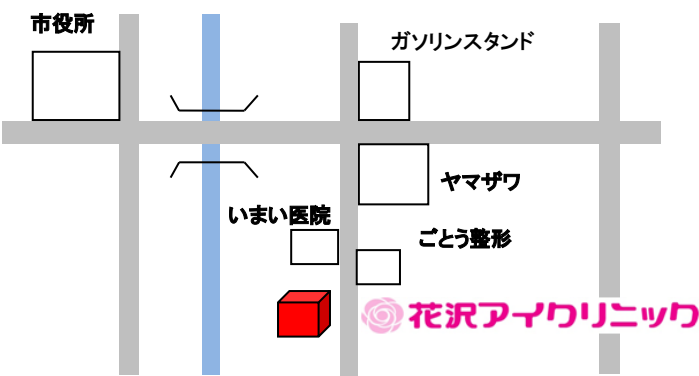


ホームページ <http://www.hanazawa-eye.com>

〒992-0022 米沢市花沢町2695-

1

受付時間	月	火	水	木	金	土
8:30~1	☺	☺	☺	☺	☺	
2:00~	☺	☺		3:00 6:30	☺	☺



初めてコンタクトをおつくりする方の受付は早めに終了します。(終了時間の1時

土曜日は昼休みなく、8:30~15:00まで

目玉いきいきライフ

目玉いきいきライフのコーナーでは、目の健康に関する情報や、耳より情報（眼科だけどっ）をお届けします。



目が赤くなる、充血と出血

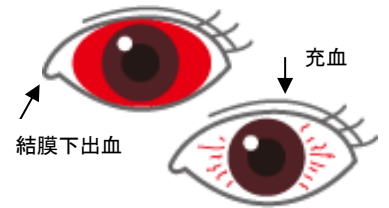
「目が赤くなる」症状には「充血」と「出血」の2つがあります。みなさんは、違いがわかりますか？今回は充血と出血の違いについてのおはなしです。

【充血】炎症などにより、細かい血管が拡張した状態。血管がきわだって見える。

代表例：角・結膜炎、ぶどう膜炎、強膜炎

角・結膜炎は、細菌やウイルスに感染したり、花粉などのアレルギー反応によって、角膜や結膜に炎症が起きている状態です。細菌やウイルス性の角・結膜炎では、めやにが多く出て、他の人にうつる場合もあります。アレルギー性結膜炎では、かゆみが強くなります。ぶどう膜炎、強膜炎は角膜・結膜よりも内部の炎症です。

治療⇒充血の原因のほとんどは、治療が必要なものなので、必ず眼科を受診しましょう。



【出血】なんらかの原因で血管が破れて、血液が血管の外に出たもの。

代表例：結膜下出血

結膜下出血は、結膜に存在する血管が破れて、結膜の下に広がったもので、白目の部分がべったりと赤くなります。結膜下出血は、「いつのまにか真っ赤になっていた」というように、原因のほとんどがよくわからないことが多いです。通常の出血では、痛みやかゆみ、めやになどの症状はともないません。目の外傷や、手術、全身性の疾患でも結膜下出血が起こることがあります。

治療⇒腕や足にいつのまにかできていた、あざのようなものなので、特に治療はありません。

普通は1～2週間で自然に吸収されます。目の外傷が原因のとき、何度も繰り返すようなとき、いつまでも出血がひかないようなときは、必ず眼科を受診しましょう。



木枯らしに負けるな 目玉いきいきライフ！



編集後記

寒くなってきましたね。クリニックでも暖房がかかせなくなりました。ドライアイ症状のある方には厳しい時期なので、点眼などまめにしてみてくださいね。

当院では毎年インフルエンザの予防接種を行っております。希望者は予約をとっておりますので声をかけて下さいね！

りっこ・ビビ・茶々